

地域科学技術施策の現状と課題

さまざまな地域科学技術施策を実施

知的クラスター創成事業

→ 特許出願件数2,230件、事業化件数803件

産業クラスター計画

→ 5万件の新事業創出、800件の創業、クラスター参画企業1社当たり平均売上高の増加(平成12年度32億円→平成17年度36億円)

地域科学技術クラスター連携施策群

→ 8府省17施策の連携

→ 一定の成果をあげているが、課題も存在。

人材についての課題

優秀なコーディネーター人材の不足、地域を支える研究・技術開発人材の不足、等

産学官連携についての課題

地域活性化の担い手としての大学の機能が弱い、事業化支援策が不十分、等

地域内のマネジメントについての課題

地域ビジョンの共有が不十分

地域内外との連携(つながり力)についての課題

組織の枠を超えた連携が不十分、大企業や公的機関との連携が不十分、等

地域科学技術施策に求められる基本的視点

地域の主体性確保 ~国は、地域の取組みを支援~

地域は、それぞれの実情を踏まえて、主体的にイノベーション創出に向けた取組みを進める。

国は、地域科学技術施策を、地域ニーズに即した「使い勝手」のよいものに改善し、地域主体の取組みを支援。

規制、政府調達、地方交付税、科学技術施策、地域を越えた広域連携施策などの施策の相乗効果を効かせる。

→ 地域の独自性と国全体としての多様性の確保。
イノベティブで強靱な国家形成へ。

国の役割 ~グローバル拠点への重点投資~

国は、グローバル競争に伍して、わが国の成長センターになり得るような「グローバル科学技術拠点」候補に対して、政策資源を戦略的に重点投入。

→ 強い拠点をさらに強くする。

地域科学技術施策の目指すビジョン

~地域拠点のエコシステム形成~

地域が、それぞれの特徴や強みを活かして成長を遂げ、多様な科学技術拠点が形成。

多様な拠点の中から、グローバル型の科学技術拠点が育ち、発展。

これらのさまざまな拠点が、互いに競い合い、協調。

→ 強靱でダイナミックな「地域拠点のエコシステム」の形成。

科学技術による地域活性化戦略～地域拠点のエコシステム～

強靱でダイナミックな**エコシステムの形成**を目指して

多様性強化戦略(戦略1)

グローバル拠点強化戦略(戦略2)

多様性強化戦略(戦略1)

国は、**地域主体の自律的發展を後押し**するよう、**地域科学技術施策を抜本的に、強化・拡充**。

地域は、産業・技術・人材等の集積を活かし、地域主体で活性化に取り組む。地域を持続的に活性化するという政策目標に焦点を当てた**地域マネジメントを確立**。

人材育成及び人材循環の強化 (コーディネーターや技能人材の育成、ポスドクの活用、奨学金等)

地域の多様性強化 (柔軟な地域科学技術施策、地方の大学等を支援する競争的研究資金等)

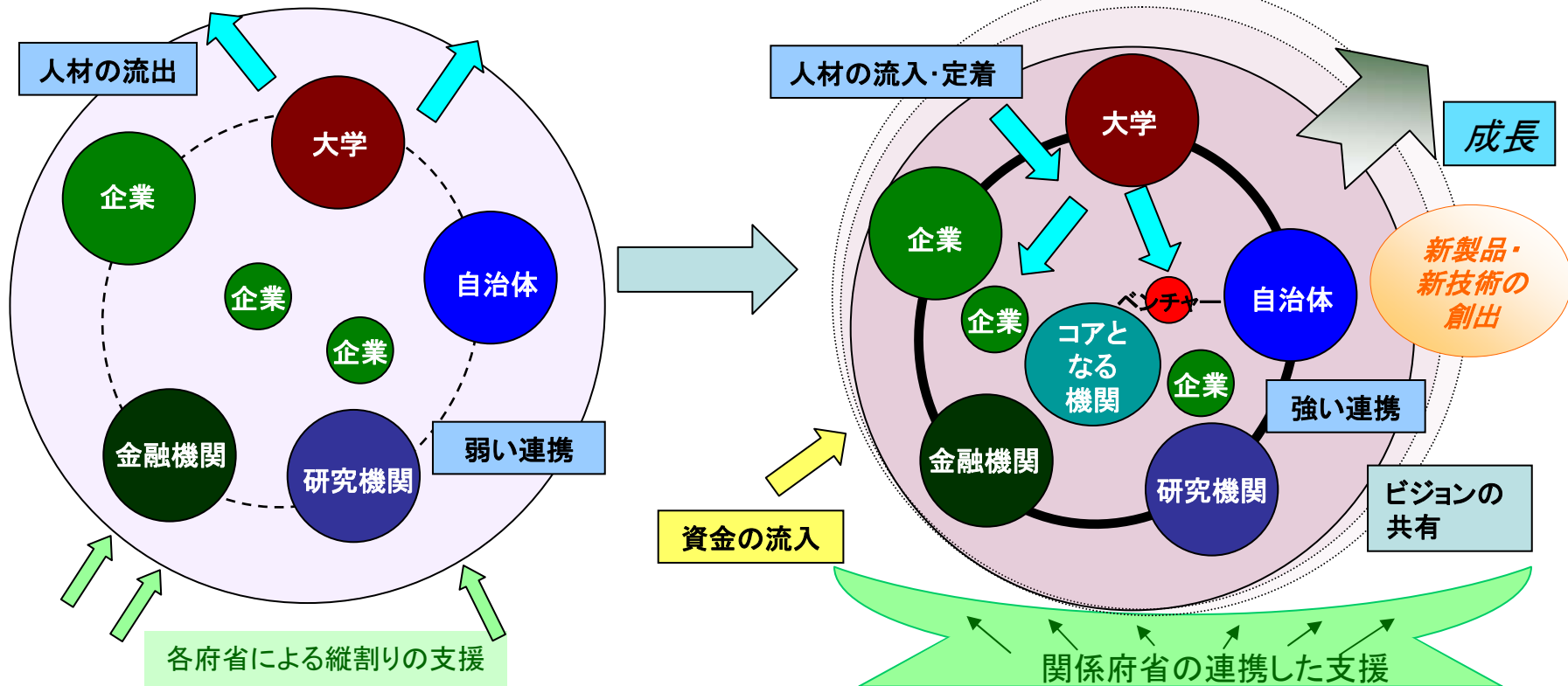
大学等の産学官連携機能の強化 (産学官連携体制の強化、大学等の研究施設の開放・利用促進等)

事業化支援機能の強化 (産学官・金融連携の強化、エンジェル税制の利用拡大、中小企業と大手企業の連携等)

国の制度改革 (受注機会の拡大、交付税措置、大学発ベンチャーに対する出資、試験研究設備の共同利用、補助金で整備した施設の地域活性化事業への転用等)

情報システムの利活用促進 (地域科学技術ポータルサイトの充実、府省共通研究開発管理システムの活用)

地域マネジメントの強化 (地域ビジョンの策定、コアとなる機関がPDCAサイクルを回す、地域のコアとなる機関への支援)



グローバル拠点強化戦略(戦略2)

国は、国全体の科学技術施策、イノベーション政策等の観点から、グローバル競争に伍してわが国の成長センターになり得るような「グローバル科学技術拠点」候補に対して、政策資源を重点投入し、強い拠点をより強くする重要な役割がある。

グローバル拠点形成計画

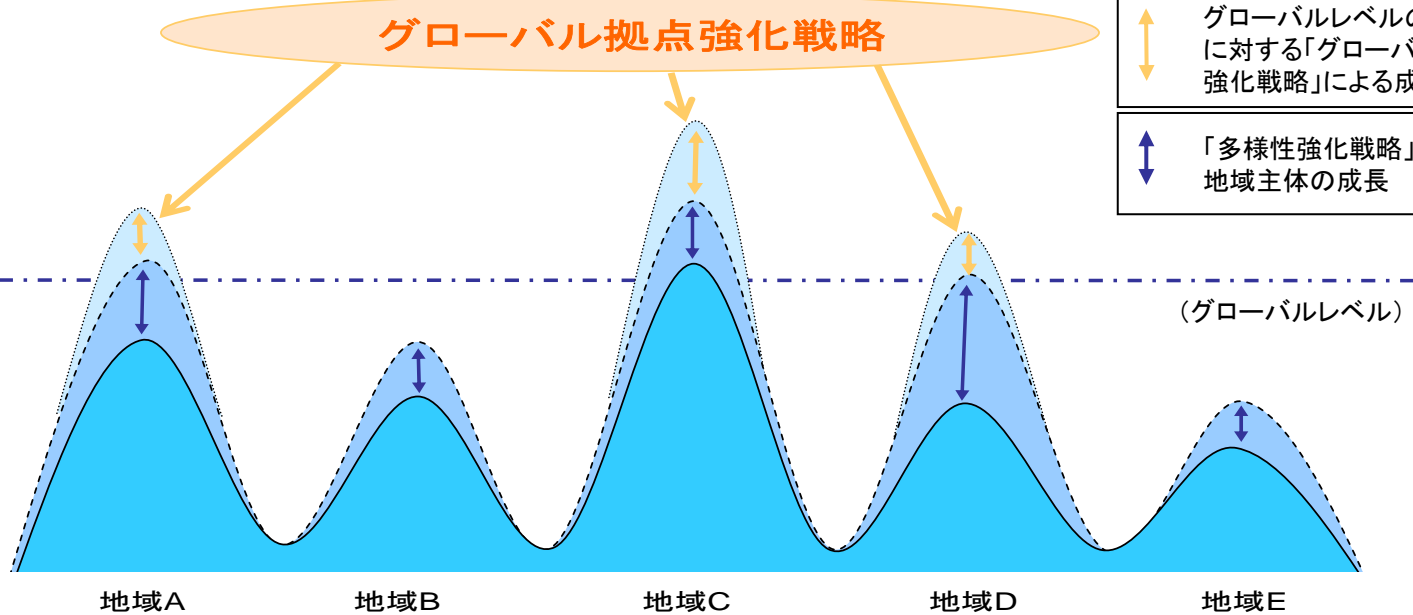
「グローバル科学技術拠点」候補

研究機関、教育機関、企業、産業支援機関などの世界水準の集積が形成されつつある。先端産業分野におけるイノベーション創出の苗床として高いポテンシャルを有する。国際ベンチマーキングを行ったうえで、比較優位性が認められる。

府省の枠を超えて一体的に、重点的・重層的な技術開発支援、産学連携施設整備支援、コーディネーター等の人的支援

グローバル競争に伍する成長センターの形成へ

科学技術による地域活性化の程度(例えば、イノベーション力、科学技術のレベルなど)



多 様 性 強 化 戦 略